

令和5年度第2回美祢市総合計画審議会 議事録

日時 令和6年2月22日（木）13時30分から15時30分まで

場所 美祢市役所3階 301会議室

出席者

- ・出席委員13人 田中会長、竹岡副会長、小林副会長、磯部委員、兼清委員、野原委員、折田委員、加藤委員、高須委員、内藤委員、松原委員、本山委員、山田委員
- ・欠席委員7人 井町委員、青木委員、岡田委員、竹尾委員、札幌委員、森脇委員、山本委員
- ・事務局 佐々木部長ほか4人

議事内容（要点筆記）

1 開会

事務局により開会～資料確認

2 会長あいさつ

田中会長挨拶

3 協議事項

(1) 市民アンケート等の報告について

事務局より資料1について説明

- 副会長 年齢別の部分について、高齢化が進んでいて、今人生100年時代なので、70歳代と80歳代では、思いも違うんじゃないか。70歳以上とくくっているが、70歳代、80歳代以上ともう1ランク設けてもらえないだろうか。
- 事務局 基本的に前回と同じ区分けをしているため、70歳以上も同様に整理している。
- 副会長 前回から5年経過しているので、変化もあるのではないか。6ページの職業別について、子育て世帯は勤務形態が常勤か、非常勤かで課題が違うのではないか。勤務形態に着目した形での調査をしてみると少しまた変わってきた課題が見えてくるのではないか。
- 委員 美祢市以外に住んだことがない人は、他で住んだことがないから意見が出せないのではないか。若い人に地域を知ってもらうような取組があると美祢市を再認識できて将来につながると思う。
- 事務局 美祢青嶺高校では地域探求学習などによる地域課題と向き合う取組を実施し、中学生に関しては公設塾minetoで地域課題に係る学習を実施している。今後も、教育分野でそういった取組をしていくことになると思う。
- 委員 成進高校は元々女子高だったが、男子が多くなっている。全校生徒250人のうち、130人は山口市からスクールバスで、80数名は美祢線でやってくる。地元の子供が少ない。単純に住みよさ10.5%の低さは、元々市内在住の女子生徒が少ないからで、この数字だけで、このパーセントっていうのは、若干、どうかと思う。
- 会長 50代が美祢市は住みよくないと回答しているのは意外。その辺分析が必要なのかなという気がした。高校生で圧倒的に住みたくない理由に希望する職業がないと回答しているが、就職したい職種は何か分析されているか。

- 事務局 報告書の 21 ページに回答を得ていて中学生、高校生それぞれ報告書のとおり。
50 代の細かな分析に関してはできていない状況。
- 会長 市外に働きに出て、市外の他の山口市なり宇部市なり、そこと比べてみたときに何かあるのかなという気がした。
- 委員 報告書のバルーンを見ると課題が見える。生活に密着しているところの不自由さが大きな問題。一つずつ丁寧にクリアしていくのが、改善案ではないか。
- 会長 日常の不便は、構造全体を変えないと。中山間地域は今の状況のままでは不便だから、美祢市内の中心のほうに、安い市営住宅つくるとか、何かこう、発想を変えないと。絶対無理だと思う。希望は希望としてきちんと聞いた上で、これからのまちづくりや都市計画を考えていくべき。
- 委員 簡単に解決できることばかりではないが、一つずつ改善するよう、行政に動いていただく必要があると思う。また、住民も行政まかせにし、要望ばかり言うのではなくて、お互いに案を提供し、上手く活用するという、地域で考える時期になっているのではないか。
- 委員 資料 1-1 の 4 ページの医療機関や福祉施設が整っていることと希望があるが、中高生アンケート 22 ページの将来の就きたい職業を比較して、介護・福祉の仕事はあまり希望がない。福祉、介護の仕事はなかなか厳しい状況にある。今後の高齢化に向けて中学生たちに、福祉、介護の仕事について事前に知ってもらうような取組が必要だと思う。
- 委員 デジタル化の取組について、その他の意見でデジタル化は恐怖であると回答している。郵便局の窓口にもお年寄りがたくさんいらっしゃる。スマホも使いこなせる人もいるが、困ったときに身近に聞けるところが各地域にあればいい。
- 会長 自治体 D X のこと。各パーツをデジタル化して組織全体として効率化を図る。人、モノ、金、時間の余力を生み出し、組織をバージョンアップさせる。余った余力を本来組織として目指す方向に投資。デジタル化で終わりではなく、最終的には D X のところまで持っていく必要がある。
- 事務局 行政の効率化と市民サービスの向上の 2 軸で、効率化を図り、マンパワーを生み出す。そのマンパワーを直接的に市民に提供できるような環境をつくるとサービスが向上する。
- 委員 満足度が 0.00 以下のものについては、第 2 群として何か取り組むべきだと思う。
- 事務局 分析としては、平均を中心軸として整理。資料 2-1 でアンケートを捉えるときに、2 群のほか、1 群のうち、重要度が高く、満足度が 0 以下のものも重要な事項であると整理しているところ。

(2) 第二次美祢市総合計画基本計画前期評価報告について

事務局より資料 2 について説明

- 会長 引き続き取り組むべき主な事項が中心になって、後半の 5 年間の計画の見直し、なおかつ、新たな策定ということにつながるのか。
- 事務局 前期の結果、アンケートより整理したもの。後期に整理していくべき事項であり、掲げられる課題であるというふうに整理しているところ。
- 会長 コロナの影響は実際どうなのか。回復しているのか。
- 事務局 手元にあるのが 4 年度の実績になる。5 年度の状況として秋芳洞の入洞者は、令和 4 年度より上回っている。肌感覚では、まだ首都圏ほど外国人観光客などは戻ってきていないように思える。

- 会長 コロナの影響は大きい。コロナを逆に転機と捉えていけばいい。美祢市には観光拠点が
ないように思える。博物館は核となり得る施設と思うが、今後どう運営していこうと考
えているのか。
- 事務局 担当課で議論をしているとは聞いているが、具体的な方向性は承知していない。
- 会長 観光の核がない。コンテンツはあるので、核が必要なのではないか。
- 委員 観光客が来ても泊まる場所がないと意味がない。観光にとっても重要性があるんじ
ゃないか。
- 事務局 跡地のホテル誘致については色々努力はしていると聞いているが、まだ今のところ
進展はない。宿泊施設があるとないとは、滞在時間の延長、観光消費額による経済効果が
違うが、解決に至っていない状況。
- 副会長 報告書の68ページにある放課後こども教室と放課後児童クラブについて、教育委員
会と子育て支援課がそれぞれ所管している。開催する場所が異なっていることで不便さ
があることもある。行政の方で壁を取っていただいたら、目標値はすぐに行くと思う。
- 事務局 制度上の違いを理解していない。できるかできないかも含め、各担当課に伝えてお
く。
- 会長 部活などの地域移行が進んでいる。1番大きい問題は指導者がいないことだが、美祢市
はどうやって確保するのか。
- 事務局 非常に難しい問題。元々ある地域クラブに移行しているものや、協力できる方の理
解で成り立っている。地域への完全移行後の体制維持は大きな課題になる。
- 委員 教育委員会と文化協会と密接につながりはあるが、スポーツに関しては怪我や場所と
か物理的な問題があり、難しい。
- 会長 スポーツ関係は難しいか。指導できる人とできない人がいる。
- 会長 自治体D Xの推進と書いているが、具体的に何をするのか。
- 事務局 既に実施している部分もあるが、マイナンバー関係やデータの住民情報系の標準化
を基本的に進める。その後に市民が必要なもの、メリットがあるもののデジタル化を進め
ていく。
- 会長 それはデジタル化で、組織全体でD Xを進めること。本来市が目指すべきところにデ
ジタル化でできた余力を集中的に投資する。それがD Xでは。そのために何が大事か、理念
や進むべき方向、目指すべき姿が大事。

(3) その他

事務局より資料3（スケジュール）について説明

次回の審議会は早くて5月下旬に予定

4 閉会

田中会長挨拶

竹岡副会長挨拶